

令和4年2月定例会市議会

行政報告要旨

総社市

本日、2月定例市議会を招集いたしましたところ、議員各位におかれましては、万障お繰り合わせの上、ご出席くださいまして誠にありがとうございます。また、日頃から市議会の皆様の、新型コロナウイルス感染症対策へのご協力と、議会運営に、格別のご配慮を賜り重ねてお礼申し上げます。

1) 令和4年度当初予算

「総社を次のステージに進めるための予算」

まず始めに、令和4年度当初予算について、ご説明いたします。一般会計における予算総額は、302億5千万円で、前年度と比較し、42億4千万円、率にして16.3%の増額となる過去最大規模の予算を編成しております。これは、新型コロナウイルス感染症対応経費を計上するとともに、令和4年度から本格的に始まる新庁舎建設事業や南北道などの道路整備費が増額したことに起因しています。

本市は令和4年度を、全国屈指の福祉施策をさらに深化させ、人口減少地域への施策に取り組む、「次のステージへのスタートの年」と位置付けてまいります。

(人口減少地域に光を当てる)

本市人口は令和2年国勢調査では、5年間で2,175人、率にして岡山県内最高の3.3%増加し、総務省2021年人口移動報告では、転入超過数が岡山県内最多の461人、昨年11月19日には、過去最大人口69,904人を記録しました。しかしながら、昨日時点の人口は69,706人となり、人口減少局面に入るかどうかの正念場を迎えている危機的な状況です。市内には、顕著に人口が減少し高齢化が進んでいる地域があり、この人口減少地域へ光を当てる施策を着実に進めていかなければなりません。

まずは、西部地区で唯一預かり保育を実施している久代幼稚園を活用し、長期休業中の預かり保育の受け入れ体制を、秦、神在、山田、新本の園児に拡大してまいります。これにより、西部地区全体の保育の充実が図られ、子育て世帯の定着が期待されます。

さらに、これまで高齢者支援の議論の場であった、小地域ケア会議を拡充し、全世代型の地域福祉・相談体制の構築をいよいよスタートさせてまいります。これにより、すべての

人を取りこぼさない地域福祉の実現と、地域の一元化を目指します。

ハード施策としては、市の重要な南北道路である、神在秦本線改良事業を本格的に進めていきます。去る2月8日には、池田地区に、池田分館が新築オープンいたしました。新しい道路や公民館で、生活の利便性が向上し、地域活性化の一助になると期待しています。

(子育て王国そうじゃをリスタートさせる)

我々は、人口減少を迎えつつあるという現実を直視し、対策を講じるステージに入りました。今こそ、子育て王国そうじゃの原点に立ち返るべく、今回の予算では、すべての子どもたちが平等に安心して暮らせるための予算を計上しております。

まずは、令和3年度子育て世帯への臨時特別給付金の対象外となった世帯の子どもたちと、令和4年度中に生まれてくる子どもたちへ、総社市独自の子育て支援給付金として、ひとり10万円を支給いたします。子どもたちは、すべて平等

に扱われるべき将来を支える宝であり、親の所得や生まれた年によって差別されるべきではないと考えております。

また、子育て環境充実のため、産婦コーディネーターの配置日数を増やし、産後ケア事業の強化を図ります。

さらに、ヤングケアラーへの支援については、この度、市内のすべての小中学校で実施した実態調査の結果がまとまりました。これによると、自身がヤングケアラーに該当すると回答した中学生が4.9%の91人、小学生が6.2%の125人であり、ケアのために自身のやりたいことが出来ていないと回答した中学生が1.4%の26人、小学生が1.5%の31人でした。この結果を踏まえ、直ちにこの57人を対象に個別ケース会議を開き対応を検討し、令和4年度は、具体的な支援につなぐコーディネーターの配置、育児支援ヘルパーの派遣を通じて、本格的な支援を開始してまいります。

ハード施策としては、総社小学校区放課後児童クラブを、総社宮敷地内から総社小学校敷地内へと移転させます。これにより、交通安全対策と慢性的な定員超過の解消につながる

ことを期待しております。

(安心と活力ある暮らしをサポートする)

次に、小中学校の学習内容を学び直したい方などを対象に、夜間中学の整備も視野に入れつつ、学び直しの夜間教室を実施します。これについては、12月～1月にかけて、ニーズ調査を行った結果、夜間中学の希望は少数でしたが、学び直し教室の希望は22名ありました。学び直し教室については、場所や指導者などの体制が整い次第、可及的速やかにスタートさせてまいります。

昨年末には、高齢者の行方不明事案が多発しました。高齢者がいきいきと安心して暮らし続けるため、GPS購入費等認知症の方への見守り事業の予算増額、フレイル予防の推進、自動車の急発進抑制装置整備のための補助金創設などを行ってまいります。

(新庁舎建設に着手する)

来年度から、令和6年度の完成を目途に、新庁舎の工事に

着手してまいります。防災機能の強化，山手・清音に分散された部署の新庁舎への集約，1階で相談が完結するワンストップ窓口の構築，バリアフリー化を実現することで，行政一元化と市民サービスの向上を目指してまいります。

2) 新型コロナウイルス感染症対応

次に，新型コロナウイルス感染症への対応についてご報告いたします。

オミクロン株の猛威により，本市も感染者数が増加し，現在療養中の方は143名，うち自宅療養者は137名となっています。自宅療養を余儀なくされている方には，保健所による経過観察に加え，市独自施策として，吉備医師会と連携した相談体制の構築と食糧支援の強化を実施しております。

本市は，第6波による医療と保育の崩壊を一致団結して食い止めるため，感染症専門家会議や総合教育会議での議論を経て，去る2月4日，保育協議会と非常時における相互応援に関する協定を締結いたしました。これにより，感染症が発生した場合に連携・協力して必要な人員を確保し，安定した

保育体制を築くことが可能となりました。

また、今月に入って発生した5件のクラスターのうち、3件が病院や高齢者施設でのクラスターであり、感染者に占める60代以上の割合が増加しています。これを受け、去る2月22日には、介護保険関係施設事業所ネットワークに向け、岡山大学の頼藤教授による、クラスター防止研修を実施し、感染対策強化を徹底いたしました。

次にワクチン3回目接種については、現在、接種完了者は23,000人で、18歳以上の市民の39%となっており、接種券は、2回目接種から6ヶ月経過した、18歳以上のすべての方へ前倒しで発送しております。個別接種と集団接種を組み合わせた総社流接種体制により、希望者に速やかにワクチン接種を行い、市民の健康と安心を守り抜きます。

3) その他

市民の皆様へ2点お知らせがあります。

昨年11月から拡幅工事を実施している溝口踏切については、いよいよ3月23日午前10時に開通いたします。約

4メートル拡幅し、歩道を設置することにより、歩行者が安全に通行できるようになります。

次に、3月3日に、そうじゃ吉備路マラソン中止の代替イベント「夢のトークマラソン」を開催します。当日は、青山学院大学陸上競技部 原^{すすむ}晋監督と、日本陸上競技連盟 瀬古利彦副会長を招いて、ランニング教室やトークショーを予定しております。感染防止のため人数制限はありますが、まだ若干の残席がございますので、ぜひお申込みください。

(12月議会での検討について)

ここで、12月議会での検討事項につきまして、その結果をご報告いたします。

三宅議員から、マイナンバーカードを健康保険証として利用するための登録窓口を、出張所などにも設けてはどうかとのご意見をいただきました。これについては、山手・清音出張所にすでに登録窓口を設けさせていただきました。北・西・昭和出張所については、準備が整い次第登録窓口を設ける予定でございます。

また小野議員から、歩得事業を活用した児童下校時の見守りの仕組みづくりについてご提案をいただきました。これについては、歩得通信新春号に下校時の見守りウォーキングについて掲載しており、令和4年度からは「参加したよポイント」に下校時見守りを加えてまいります。

本市は、「あなたにとって一番やさしいまち」総社の実現に向け、社会的に弱い立場の方々への施策を、これまで以上に掘り下げ、より充実させ、市民一人ひとりの幸せを追求してまいります。長引くコロナ禍ではありますが、この苦境を、市民一丸となって乗り越えていきましょう。

議員の皆様をはじめ、市民の皆様におかれましても、より一層のご理解と、ご協力をお願い申し上げ、私からの行政報告とさせていただきます。